

# あいさつ

根 岸 玲



平成23年4月から自然の博物館でお世話になることになりました根岸です。

井上前館長同様よろしくお願ひいたします。

私は、今、本紙「埼玉県立自然の博物館ニュースレター」の原稿を書いているところです。というよりは文章を書くことが苦手で、なかなか進まないのです。そのような訳で、窓の外に目をやると、緑を増した木々の葉が風にそよいでいる姿が見えます。季節のうつろいは早いものです。少し前には、長瀨の桜並木が一斉に花を咲かせていました。また、荒川沿いには、まだ萌葱色の木々の合間に桜が見えました。さながら自然の織りなすグラデーションのようです。カエデも目にすることができます。秋にはライトアップされ、紅葉がとても美しいと聞いています。

ところで、新聞報道などでご存じの方も多と思いますが、フランスのミシュランが5月13日に発行した旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に長瀨町が県内で初めて掲載されました。自然の博物館も紹介されています。化石等の地学展示、ジオラマの生物展示、さわれる剥製コーナーなどが評価されたようです。宝登山神社が「興味深い」を意味する一つ星となっています。

80年以上の歴史を持つミシュラン・グリーンガイドには、好奇心に満ちた旅行者が、訪れる土地をよりよく理解し、充実した旅を楽しめるような情報が満載されており、豊かな自然や多彩な文化に触れることができる興味深い観光地が紹介されているとのことです。

さて、自然の博物館は埼玉の自然、人のくらしと自然との関わりに関する資料の収集・保管及び

調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に平成18年度に設置されました。「過去から未来へ埼玉3億年の旅、そして自然との共生」がテーマです。本館の沿革は遠く大正時代まで遡ることができます。大正10年、秩父鉄道株式会社により、「鑛物植物標本陳列所」が当地に設立されました。昭和24年には「秩父自然科学博物館」となり、秩父地域の自然史研究の拠点として知られてきました。

昭和56年、埼玉県は、それらを継承しつつ、埼玉県立自然史博物館を設置しました。その後、県立博物館施設の再編整備により埼玉県立自然の博物館として現在に至っています。

今年度の事業ですが、企画展や共催展などの展示事業、体験学習などの教育普及事業等を実施します。職員が学校に出向き、理科の授業や総合的な学習の時間などをサポートする出張授業等も行っていきます。是非、活用いただければと思います。また、本館の敷地内に観察園「カエデの森」を新たに整備します。カエデは全国で日本産28種が生育していますが、その内、21種が埼玉県で自生しています。まさに本県の自然の多様性を象徴する植物の一つと言えます。

「カエデの森」は、本館の屋外展示として位置づけ、埼玉の自然の多様性を学べる場、環境教育の生きた教材となるよう整備していきます。多くの皆様方に気軽に立ち寄りいただけるように散策路なども設ける予定です。次に、本館は建築後約30年が経過し、施設の老朽化が見られるようになり、今年度から来年度にかけて改修工事が実施されることになりました。そのため、9月から休館する予定です。皆様方のご理解をお願い申し上げます。

今後とも、専門性を発揮し、魅力ある、安心・安全な博物館であるよう取り組んでまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(ねぎし あきら・館長)